



GUNNM
Last Order

Vol. **9**

木城ゆきと

ハルカ



笛の名手。
アーサーの指婚者。

アーサー



ヴィルマと因縁のあった
シュルター指揮者・ワレルの子孫。

ウィクター



最強の血族。
ヴィルマのパートナー。

ウィルマ



不死の血族。
後のカエルラ・サングウィス。

ピング・ウー



元・凄腕ハッカー。
今はガリイの協力者。

ガリイ (陽子)



本編の主人公。
火星生まれのサイボーグ戦士で、
機甲師の使い手。

近未来——世界は、支配する者と支配される者との二分されていた。圧倒的な力で地上を治めるのは、天空に浮かぶ人工の楽園都市・ザレム。だが、誰が、いつ、何のために、空中都市を造ったのか、知る者はいない。地上のクズ鉄町に住むザレム出身の医師・イドは、古い瓦礫の中から少女の頭部を発見し、ガリイと名付ける。奇跡的に甦ったものの、彼女の記憶は完全に失われていた。しかし、クズ鉄町での生活は、ガリイの中に眠っていた「戦士」の血を徐々に呼び覚ます。ガリイは賞金稼ぎを生業としながら、貪欲に自己発見の道を突き進み始めた。

ザレムに憧れる少年・ユ・ゴと出会って恋を知り、彼の死にまみえ魂の慟哭を知った。絶望から逃れようと飛び込んだプロスポーツ・MB界では、帝王と呼ばれる男、シャングァンとの邂逅、死闘、決別を経験する。自身を刃のようになり、研ぎ澄まし、闘い、挑むことにより、ガリイは内なる自分を見つめ続ける。だが、狂気の科学者・ノヴァに改造されたザレムとの闘いの果てに、ガリイは家族であるイドを失い、己の命さえも風前の灯火となってしまう。

そのガリイを拾い上げ、新たな道を提示したのは、ザレム地上監察局だった。イド再生の鍵を握るノヴァの行方を追うために、ガリイはザレムの地上エージェント・TUNED・GRシリーズとして生きる道を選んだ。

ガリイは、傭兵のフォギアと知り合い、なくしかけていた「人」の心を取り戻す。そんなガリイの前に立ちちはだかる者が次々と現れた。ノヴァの息子でサイコメトラーのケイオス。ケイオスの第二の人格として生まれ、ザレムに敵対する民衆のリーダー・電。電を慕う少女・コヨミ。ガリイの複製として作られたTUNED・GRシリーズ……。熾烈を極めた闘いの中で、TUNED・GRシステムをバックアップしていた協力者・ルウは解任され、ザレム人の脳がマイクロチップであるという驚愕の真実が明かされる。

対自核夢による脳内ハッキングをはねのけノヴァを倒したガリイは、ついに勝利したかに見えた。が、フォギアのもとへ向かう彼女を待ち受けていたのは、ノヴァが仕掛けた思いもかけないトラップ——ノヴァはナノマシン・テクノロジーによって再生していたのだ。

そして、爆死したガリイの脳は、空中都市・ザレムへと持ち込まれた……。そして、爆死したガリイの脳は、空中都市・ザレムへと持ち込まれた……。そして、爆死したガリイの脳は、空中都市・ザレムへと持ち込まれた……。

※これまでのストーリーは、第2巻(完全版)1～6巻に収録されています。

ノヴァの手により、ガリイは究極のイマジンノス体を与えられ復活を果たす。行方不明だったルウがザレムで発見されるが、それは脳内チップを抜かれた死体だった。摘出され宇宙都市・イエールに運ばれたルウの生身脳を捜して、ガリイはノヴァと護衛のGRシリーズ・セクスらと共に、イエールへ乗り込んだ。だが、イエールの実力者・ムバディにノヴァは捕らえられ、ガリイたちは宇宙空間へ遺棄されてしまう。間一髪、元・凄腕ハッカーのピングと、火星王国・リメイラ女王に救助されたガリイたちは、ルウの脳奪還のチャンスを持つために、イエールで開催される森羅天頂武闘大会・ZOTTに出場することになる。

ZOTT第一回戦で、ガリイは宇宙天使隊は、カエルラ率いる星の保育園協会・ガントロールを撃破。過去の因縁でつながっていたカエルラから、謎のプログラム「ファタ・モルガーナ」を託された。つづく第二回戦・星船教団との対戦をセクスらに任せ闘技場を抜け出したガリイは、イエール本体への潜入を企てる。途中、かつての機甲術教官・ツァイクと遭遇したことがきっかけで、ガリイは失っていた記憶を取り戻した。自らの過去と向き合い決意を新たにしていたガリイは、「ファタ・モルガーナ」を使い中央電脳メルキゼデクへとタイプした。メルキゼデク内部のプロトタイプ・マーリンにアクセスしたガリイが見たのは、不死の血族であるヴィルマらと人間達との激しくも哀しい遠き過去の物語だった。

PHASE:50

もしそなたの魂に

005

PHASE:51

最後の審判のその日まで

037

PHASE:52

孤高…すなわち

073

PHASE:53

最後の贈り物

105

PHASE:54

その涙が私のために流れるのなら…

137

PHASE:55

私は学んだのだ

169